

積水化学工業株式会社

見守りセンサー ANSIEL(アンシエル)

機器の概要

起上り検知に長けた見守りセンサー
在床管理機能と併せて1台2役

「ANSIEL」は2020年5月に販売を開始した、起上り検知に長けた見守りセンサーです。ベッドのマットレス下に設置して使用するため、利用者に違和感を与えることなくご利用いただけます(※マットレスは厚み20cm以内まで。エアマット・スプリングマットは精度に影響が出る恐れがあります)。

「ANSIEL」には当社独自開発の高精度圧電センサーを搭載しており、シートにかかる(人体が発する振動による)圧力を電気信号として検知することで、「入床・体動・起始・起上・不在・在床・心拍・呼吸」の8項目を解析することができます。ご利用いただける環境は2通りあり、ナースコールを通じて通知を受け取る「有線接続(要オプション品)」と、Wi-Fiを利用してPCやスマホアプリ等で通知を受け取る「無線接続」です(併用も可)。

ネーミングの由来は「安心を得る」から来ており、利用者の安心・安全と職員の負担軽減を目指して製品開発を行なっています。「ANSIEL」には3つの大きな特長がございます。

1つ目は、利用者の事故予防に寄与する高精度な「起上り検知」です。

現在普及している床に敷くマットセンサーは踏んだときに通知が鳴ります。それと比較して、

「ANSIEL」は起上りの時点で発報するため、より早く居室へ駆け付けることができ、転倒・転落事故の予防に役立ちます。

2つ目は、職員の負担軽減に寄与する「在床管理ツール」です。

こちらの機能はWi-Fi環境での無線接続時に利用可能です。PCやスマホアプリなどで利用者の状態(在床・不在・心拍・呼吸)を常に把握することができるため、定期訪室(巡視)の回数減が見込めます。また、各状態は履歴が記録されており、それを遡って確認することで利用者の生活リズム把握にもつながります。これらの機能を活用することで職員の肉体的・精神的負担を軽減し、利用者によりよいケアを提供することに役立ちます。

3つ目は、導入のしやすさです。

「ANSIEL」は電子機器が苦手な方にも手軽に扱っていただけるような設計を心がけています。無線接続利用の場合でも、クラウドサーバー運用のため、専用機器の設置やサービスマンが訪問しての専門的な設定などは必要ございませんので、一度初期設定が完了すれば設置する利用者を変える場合の移設も非常に手軽に行なえます。また、購入後の月額費用は発生いたしませんので、コスト面での導入障壁を下げるすることができます。

以上3つの特長に加え、外部連携も順次開発中です。(ナースコールシステム・介護記録ソフト等)

「ANSIEL」は様々な利用シーンに合わせてご利用いただける製品となっております。



ANSIEL



スマホ・PCでの一括管理
ライフログの取得も可能

※Wi-Fi環境が必要です

ナースコール、PCやスマホアプリへ通知

型番	AS-101
セット内容	センサーマット（筐体付き）、ACアダプタ
本体サイズ	センサーマット：幅 800mm × 高さ 1mm × 奥行 210mm 筐体：幅 700mm × 高さ 23mm × 奥行 230mm
重量	570g
材質	AC アダプタ（AC100V、50/60Hz）
センシング方法	振動センサー（圧電素子）
発報の方法	ナースコール接続（要中継ケーブル等のオプション品）、専用アプリ（PC、スマートフォン等）
外部通信	無線 LAN IEEE802.11b/g/n（2.4GHz）
適合マットレス	厚み 20cm 以内推奨、エアマット・スプリングマット非推奨
販売価格	オープン価格
メンテナンス費用	保証期間は購入後 1 年間（初期不良等は交換対応・無償修理対応）。2 年目以降、その他故障は有償修理対応

問い合わせ先

積水化学工業株式会社
〒105-8566 東京都港区虎ノ門 2-10-4
オークラプレステータワー
担当者：高機能プラスチックカンパニー
開発研究所 SD プロジェクト
和田

HP <https://s-ansiel.com/>

Mail ansiel@sekisui.com

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

介護付有料老人ホーム サンリッチ三島

所在地

〒411-0022 静岡県三島市川原ヶ谷 264-2

導入時期

2020年12月

使用概況

使用台数 15 台
対象者 15 / 122 室

導入のための協力機関

積水化学工業のみ

導入に要した費用

製品本体購入費のみ。ランニングコストもゼロ

立っています。「サンリッチ三島」は建物が 10 階建てで、マンションのような構造をしているため、介護センター（7 階）から各階居室への移動に時間を要しました。「ANSIEL」を導入してからは、居室を巡視しなくても状態が把握できるため、訪室が必要な居室を効率よく回れるようになり、職員の負担が大きく減りました。



機器設置の様子

機器の設置状況・使用状況

主に転倒リスクのある方に設置。データ出力を活用し利用者の生活リズムを把握

現在「ANSIEL」を 15 台導入しており、主に転倒リスクのある方に設置しています。起上りの通知が届いたときや、夜間「不在」状態が続いているときなどは、居室へ様子を見に行きます。また、最大 1 カ月分の様子をまとめて見ることのできる「データ出力」を活用し、利用者の生活リズムの把握に役

機器の選定理由・導入経緯

事故予防と在床管理の両方を満足させる機能を有する

昨今取り沙汰されている介護業界の人材不足や、先述した当施設独自の課題を踏まえ、様々な業務を ICT 化する検討を施設全体で始めていました。まず取り組んだのは、介護記録ソフトの導入です。同時にタブレット（iPad）も配布し、最初は操作に

戸惑いもありましたが、徐々に慣れてくるとその便利さを皆が実感するようになりました。この成功を受け、次のステップとして見守り機器の検討に移ります。複数の機器を調査している中で、積水化学の「ANSIEL」が目にとまり、実際にデモを実施することになりました。その結果、非常に設置・設定が簡単で、なおかつ見守り機器に求めている事故予防と在床管理の両方とも満足できる機能を有していることが分かったため、導入を決めました。

源を入れれば、すぐに使用できる状態になります。併せて、表示名の変更やセンサー感度調整の実施と、必要に応じて通知の種類を切り替えるだけで設定が完了するため、ストレスなく作業できます。

機器の導入による介護業務の変化

利用者への効果・影響

訪室が最低限になり、繊細な利用者もゆっくり休める

「ANSIEL」の導入前は、必ず居室内に入って様子を確認していた関係で、眠っている利用者を起こしてしまうことがありました。導入後は、アプリで事前に状態を確認できるため訪室が最低限になり、繊細な方にもゆっくりお休みいただけるようになりました。さらに、起上り通知の精度が高いため、通知受信後すぐに駆け付けることで事故を未然に防げたこともあります。転倒は怪我につながり自立機能が低下する恐れがあるため、「ANSIEL」を設置することでリスクを減らすことができます。

また、ご家族へ日々の様子をお伝えする際にも、「ANSIEL」のデータを活用することで、より安心感を得ていただけるようになりました。

機器の適用範囲・使用場面

8種類の検知項目を幅広い利用者に適用。用途に合わせて機器を入れ替える必要がない

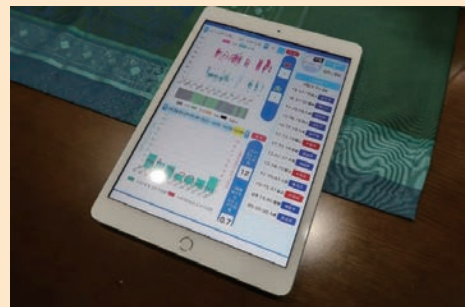
「ANSIEL」はご利用者の動き（イベント）をお知らせする「入床・体動・起始・起上」と、状態をリアルタイムに反映する「在床・不在・心拍・呼吸」と、合わせて8種類の検知項目があるため、幅広い利用者に適用することができます。現在は全利用者に対して「起上」の通知をONにして使用していますが、イベント通知をすべてOFFにすることで、転倒リスクがない方や、ベッドから離床することのない方に対して在床管理ツールとして使用できるため、それぞれの用途に合わせた機器に入れ替える必要がなく、とても手軽です。また、他の利用者へ「ANSIEL」を移設する際も、電源を抜いて新しい設置場所で電

機器導入施設の声

これまで気付かなかった夜間帯や訪室以外の様子を踏まえてケア

以前は7階の介護センターから1階まで様子を見に行くのに時間がかかりましたが、「ANSIEL」のアプリで事前に状態を確認することができるようになったため、不必要に行ったり来たりを繰り返すことがなくなりました。また、在床状況と合わせて心拍や呼吸の履歴を見ることで、これまで気付かなかった夜間帯の様子（きちんとベッドで横になっているか）や、訪室（巡視）以外の様子（どこで過ごされていることが多いのか）が分かるようになり、それを踏まえたケアができるようになりました。「ANSIEL」を導入したことでこれまで手が回りづらかった業務にも取り組めるようになり、すごく助かっています。

●介護付有料老人ホーム サンリッチ三島



タブレットで利用者の状況を確認

介護者への効果・影響

業務の多くを占めていた書類記入と夜間の定期巡視作業を大幅に削減

「ANSIEL」を導入するタイミングで、今後さらなるICT化を見据えて全館にWi-Fi環境を整備しました。介護センター以外にも持ち歩けるように、軽量のiPad miniを追加で導入したことで、いつでもどこでも「ANSIEL」アプリで在床状況を確認したり、記録ソフトへ入力したりすることができるようになりました。従来、業務の多くを占めていた書類（紙）への記入作業と、職員一名あたり約60部屋への夜間定期巡視とを大幅に削減できたことで、職員の肉体的・精神的負担の軽減が実現しました。



アプリで在床状況を確認、記録ソフトへ入力

機器の評価

機械的な感じを受けず、親しみやすい状態が見やすく可愛いアイコン表示

アプリは直感的な操作で利用できるため、ICT機器に不慣れな職員も比較的速やかに使用できるようになりました。また、面倒な初期設定等も不要で、利用者の変更や通知設定を変えたい場合もアプリでの操作だけで完結します。状態の見やすさも特長です。可愛いアイコンで各状態が表示されるため、機械的な感じを受けず、親しみやすいです。

機器導入のための工夫

電波環境を事前に綿密に調査。持ち歩きながら居室確認できるようタブレットを軽量化

Wi-Fiを利用する製品なので、電波が届かない場所ができないよう、事前に綿密な調査を実施しました。受信端末に関しては、これまではiPadのみで運用していましたが、持ち歩くには少々重いのが難点でした。そこで、軽量でコンパクトなiPad miniを追加で準備することで、介護センターからだけでなく、持ち歩きながら各居室の様子が確認できるように工夫しました。

機器導入施設 責任者の声

業務量の負担軽減と感染症予防対策に効果 これからの人手不足にも役立つ

●介護付有料老人ホーム サンリッチ三島
代表 福家 英也

「ANSIEL」を導入したことにより、職員の業務量の削減や、ますます人手不足が加速していく中での働きやすい職場環境の改善につながっています。特に、安否確認の訪室（巡視）回数を減らすことができたため、業務量の負担軽減や感染症の予防対策等にもなっています。夜間の訪室（巡視）回数の減少から、利用者の睡眠を妨げることも減りました。24時間いつでも安否確認ができるので、業務量の削減はもちろん、職員の精神面の負担軽減にもなっています。本当に導入してよかったと実感しています。